

## 三津紀行

令和二年八月一日

大中臣正比呂

三津浜は松山空港から車で十分ほどで着く。松山市の西部にあるこの港は、江戸の昔から栄えた伊予松山の玄関口である。

松山に赴任した夏目漱石は、この港に降り立ったのである。当時の雰囲気は漱石の小説「坊ちゃん」にも詳しい。司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」に出てくる、秋山兄弟や正岡子規もここから東京に旅立った。

往時の三津には、子規や漱石、秋山真之達がよく遊んだ料亭が立ち並んでいた。昭和の時代にも六つ程が残ったようであるが、今はその料亭もなく、花街も消えてしまった。港には漁師の船と釣り舟と餌を売る店、そして船の修理をする小さなドックがある。

「三津の渡し」では入江の対岸に人を渡してくれるが、それは「県道」であるらしく、愛媛県が行政の一環として運営しているので、只で乗れる。以前は県の職員が渡し船を操船していたが、今は委託の職員さんが運転している。目視で人を認めると、渡し船を出す。住民の買い物足でもある。渡しの先には湊三嶋神社がある。

町起こしの紹介では、三津の商店街は松山で最初に作られたとあるが、今は往時の賑わいは無く、レトロな街並みがひっそりと続いている。昭和の頃は、その商店街の中ほどに、「ふじの家」という料亭があり芸者衆がお座敷に出ていたのである。

「ふじの家」は、伊予見番の芸者衆が、その名を継承しようと、「お茶屋」として店開きをするらしい。

